

俳句に親しもう

年

組

番
名前

◇ 次の俳句について、問題に答えましょう。

① 名月をとってくれろと泣く子かな (小林一茶)
② 雪の朝二の字二の字の下駄の跡 (田捨女)
③ 閑かさや岩にしみ入る蟬の声 (松尾芭蕉)
④ ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな (村上鬼城)

(二) リズムよく読めるように、二カ所に区切る線を書きこみましょう。

例 菜の花や月は東に日は西に

(与謝蕪村)

(二) それぞれの俳句の季語と季節を書きましよう。

季節	季語
	①
	②
	③
	④

(三) それぞれの俳句がどんな様子を表しているかを考え、記号で書きましよう。

ア 大きな桜の木の枝が、たくさん桜の花びらをつけて、風にゆれている。
イ 満月がともきれいなので、取ってほしいと小さなわが子が泣いている。
ウ 雪がふった朝、外へ出てみると「二」の形になったげたのあとがたくさんできていた。
エ ひっそりとしずかな中で、せみの声だけが岩にしみこむように聞こえてきた。

①	
②	
③	
④	

俳句に親しもう (答え)

(一) リズムよく読めるように、二カ所に区切る線を書きこみましよう。

①	名月をとって 泣く子かな	(小林一茶)
②	雪の朝二の字 二の字の下駄の跡	(田捨女)
③	閑かさや岩にし み入る蝉の聲	(松尾芭蕉)
④	ゆさゆさと 大枝ゆるる桜かな	(村上鬼城)

(二) それぞれの俳句の季語と季節を書きましよう。

季節	季語	
秋	名月	①
冬	雪	②
夏	せみ	③
春	さくら	④

* 季語は、その季節を表す言葉で、俳句には必ず入ります。秋は月が美しく、今でも秋にはお月見が行われますね。

(三)

①	イ
②	ウ
③	エ
④	ア